

支部だより

令和5年 春季審査会

40-01



40-02

ご挨拶

新型コロナウイルス感染症の位置づけが第5類感染症に引き下げられることとなり、マスクの着用制限が緩和され、各道場では、マスクの着用は任意として活動しています。

しかし、とても良いものですね。何が良いかといえは、暑さに対する対策としての面もありますが、何よりも皆さんの顔が見られ、表情が見られ、指導者自身の表情も見せることができるところです。新型コロナウイルスの感染拡大が始まって以来、マスクの着用が強制されていた為、その期間に入会された方々の素顔を見ることができず、指導者自身も素顔を見せることができないというのは、なんとも寂しいのだと感じていました。見えるものを見て、聞こえるものを聞いて、匂いや感触、そして雰囲気を感じること、匂いや感触、は、人が人として生きていく上ではとても重要なものだと思います。自身が持てる感覚器官を総動員して、日々の生活を体で感じ、感覚で味わい、稽古の中で感じる雰囲気、心に響かせて頂きたいと考えています。

しかし、コロナが少し落ち着いてきたこの時期ですが、世の中は物価高に苦しみ、過去に見なかったことのないほどの大きな自然災害に見舞われ、世界中を見渡してみても敵しい紛争が絶えまなく続いています。

私が良く稽古の中で、特に子供のクラスで話をすることですが、稽古で学ぶ技術は、相

手を突き蹴り・投げ締めといった攻撃を加えるものであり、一歩間違えるとただの暴力となる危険性ははらんでいます。だからこそ、子供たちには戦う技術を学ぶ前の精神教育が必要であり、強くなることと合わせて、我慢強さを身に付けることが大切です。そして、そのよつな学びを一つの「道」として、生きる上で精神修養に高めたものが日本の武道です。

その戦うための技術(武技)が武道として形作られたのは太平の世といわれる「江戸時代」であり、その時代は260年続きました。明治維新で終焉を迎えましたが、その幕末の時代を乗り越えるために大きな力を発揮したのが、太平の時代に武道の学びを続けていた武士達です。太平の260年の間、武士たちは戦う技能と精神を維持し、日本の大きな激闘の時代に大きな力を発揮して、日本という国を守り抜いたのではないかと感じています。

それほど大きなものではなくとも、平和な時代に武道を学ぶことの価値を、そして強くなるために努力する価値というものを、稽古に参加する一人一人の稽古生に感じ取っていただきたい。武道の学びは世界平和につながるものになってもらいたい。私は日本の伝統を継承しているつもりで稽古指導を続けています。

支部長 森直樹

目次:

ご挨拶	1
行事報告	2~3
キッズ&ジュニア 少年部塾生だより	4
こどものコーナー	5
キッズ&ジュニア 優良出席者	6
栄養 コラム	7
中学部昇段レポート 中学部塾生だより	8~9
写真 (活動の様子)	10
活動状況	11
一般部 塾生だより 大会・懇親会レポート	12~14
各道場・教室紹介	15~19
継続の礎	20
お知らせ	21
編集後記・コラム	22

寄稿者

「塾生便り」(少年部)

野元徹心 倉田大誠

「昇段レポ・塾生だより」(中学部)

石川佳真 櫻澤 悠

井上太陽

「塾生便り」(一般部)

高田哲也 倉田英明

「大会レポート」

岡本昌樹

「懇親会レポート」

太田裕司 小林俊也

「道場・教室紹介」

坪井清弘 小池秀人

小久保謙一 西野克彦

田高和樹 若林和男

嶋原正人

「継続の礎」

徳増輝久